

久慈平神社・胎内くぐり

久慈平岳キャンプ場の駐車場に車を止め、来た道を少し下ると、大きな鳥居が！

ここは『久慈平神社』です。

九戸地方は優秀な馬の産地で、「源義経」の愛馬の産地だという伝説もあるのだとか。



久慈平岳は、馬の放牧地で、建久4年(1193年)に「馬頭観音」をまつたことで信仰が始まり、馬の守護神である「蒼前さま」がまつられるようになったそうです。

毎年6月の山開きには、安全祈願祭だけでなく、参拝馬登山行列や芸能交流祭が行われます！



久慈平神社の社の手前、向かって左手に降りて行くと、『胎内くぐり』の岩があるようです。

600m下との看板が立っています。

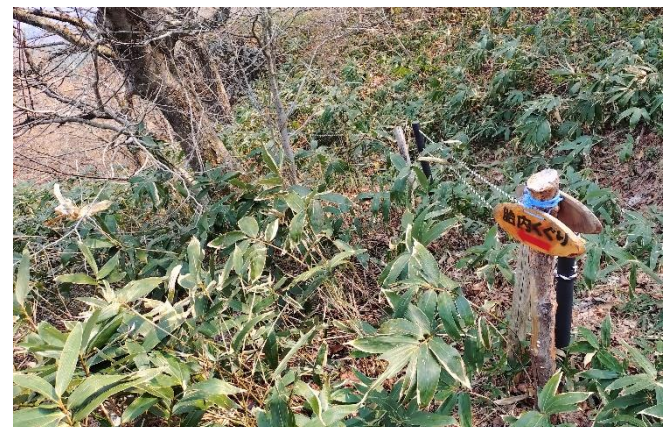
600mくらいなら楽勝！

と安易に考えたこの時の自分自身を恨むことに…



看板の横を見ると、ロープが張られた急斜面が！

ここを降りて行くのかと、さっそく後悔しています。



運動不足に山道は厳しいですね。

ぜい、ぜいと息を切らせ、まだ着かないのかと思ったところに看板が見えてきました！

やっと着いた・・・いや、まだ200m先だって・・・



ひいこら進み、見えてきた岩が！

「この岩か」と思い、喜び勇んで駆け寄りましたが、違うようです・・・

近づいているのは確かだ、もうひと踏ん張り・・・



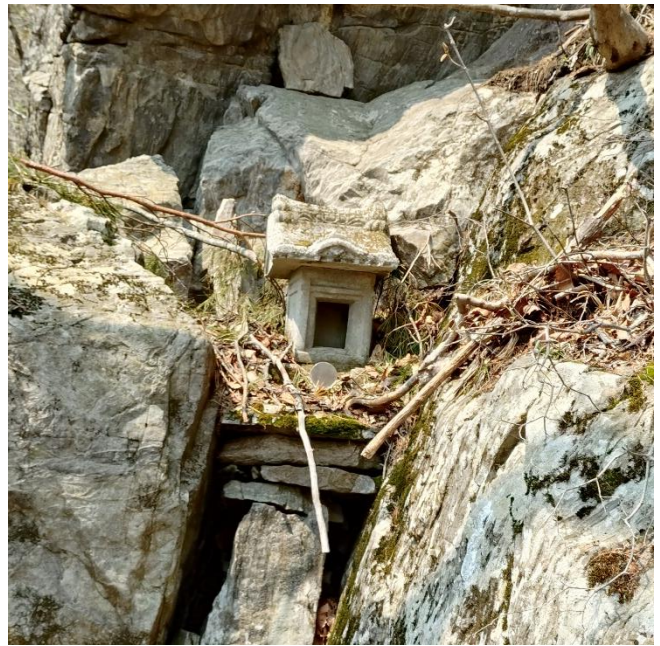
ついに辿り着きました！

『胎内くぐり』とは、この岩の裂け目をくぐり抜けることです。



岩の横に小さな祠が！

せっかくなので、安全を祈願させていただきました。



近づいて、岩の裂け目をのぞくと…

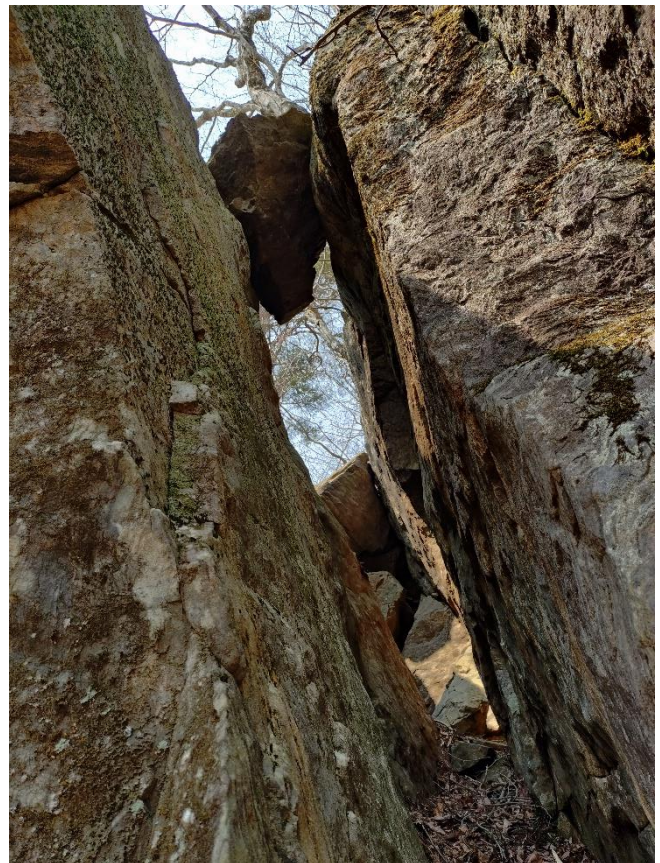
1つの岩の裂け目ではなく、2つの巨大な岩が並び立ち、その上に岩が乗っているようです。

この、2つの巨岩の隙間をくぐり抜けるのですが、無事、抜けることができると腰の痛みが治ると言われているそうです。

しかし、『善人は何もなく通り抜けられるが悪いことをした人は中で急に大蛇が見えて通れなくなる』とか、『旅人を追って中に入った熊が崩れてきた岩につぶされた』などの昔話があるそうで…

悪人の自覚のある私はくぐらずに帰ることに！

いや、冗談は置いておいて、ここまで来るのに疲れ切って、帰る体力も怪しいのです。



皆さん、久慈平神社から600mとあなどらず、しっかり登山ができる装備と体力で来た方がいいですよ！